

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800044		
法人名	特定非営利活動法人水度坂友愛ホーム		
事業所名	グループホーム ゆうあい寺田		
所在地	城陽市寺田乾出北45		
自己評価作成日	2014/1/7	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2692800044-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通り上ノ口上ル梅津町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	平成26年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との絆を大切にし、家族の役割、職員の役割を明確にし、サービスを提供している「ピンピンコロリン」を目標に、毎日体操、歩行訓練を職員と共にやっている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「寺田いも」で知られる、近鉄寺田駅より少し西北に入った、住宅と農地が散在する静かな場所に、水度坂友愛ホーム寺田ケアセンターがある。元幼稚園の建物を借り受け、居宅介護支援・デイサービスゆうあい寺田・小規模多機能ゆうあいの家と併設している。開設は平成22年11月である。元幼稚園であったから、敷地・建物も広くゆったりしている。部屋数も多く、すべて有効利用している。NPO法人「友愛ホームの理念」として三項目あげているが、その中でも「家族との絆を大切に」「生きていてよかった」「生きてもらってよかった」と、尊厳ある生活を最期の看取りまで支援します。」と表明し実現に努めている。家族との絆を深め継続出来る様にとの配慮から、グループホームでありながら、年二回(お盆・年末年始)自宅に帰って家族と過ごす機会を作っている。事業所の方針として、入居時に説明し理解・協力を得ている。各事業所で共有しているスローガン「暖かい心 やさしい手 そして笑顔」の実践の一つとして、残存機能を重視し、車いすから歩行へと繋げる努力をしている。車いすで入居された方が、現在杖なしで歩行している事例がある。一人ひとりの状況から、柔軟な支援を心掛けている。地域とも密接な関係を築き、約50名のボランティアが訪れて活躍しており、住み慣れた場所で、最期を迎えたいという思いを出来る限り叶えたいと努めている事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念を唱和し共有している	友愛ホームの理念として3項目にまとめているが、特に3項目目に「家族との絆を大切に『生きてよかった』『生きてもらってよかった』と、尊厳ある生活を最期の看取りまで支援します。」とある。この理念に沿って「暖かい心 優しい手 そして笑顔を」を系列全事業所のスローガンとして、全職員が理解し、日々の支援に努めている。友愛ホームのロゴは、職員が話し合っ「友愛の精神」を形に表している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(運動会など)やホームの行事に参加して地域の方と交流している	地域との付き合いは、日常的に密接な関係を築いている。町内会に入会し、回覧板で事業所の行事を案内している。現在、50名ほどのボランティアが関わり、花植えや美容サロン・行事の参加支援等様々な支援を行っている。子供会とも付き合いを持っている。玄関前には、「ようこそ ゆうあいへ」と案内板を出し、いつでも、誰でも訪れられる雰囲気を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防教室や花植え事業をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催し、その場で利用状況等を報告している。	会議には、行政・包括支援・校区社協・民児協・協力医・家族の会・自治会からの参加と共に事業所の理事長・職員が参加している。毎回「テーマ」を決めて情報交換・意見交換を行っている。更に、協力医による「認知症について」の話を聞いたり、参加者と共に避難訓練を行っている。参加者から「入浴について」の意見があり、重度の方の入浴は二人介助で対応している事を説明し理解して貰っている。	運営推進会議は、地域と事業所とが密接に協力体制を作られ実践しておられます。更に、充実した会議となる様に、会議録の纏め方を工夫される事を提案致します。会議毎に、決定事項・課題事項を明確にされ、次回の会議で決定事項の再確認と課題の改善状況の報告をしていかれると、会議の流れができ、年度末の会議で総括されて、次年度の事業計画に繋がれたら如何でしょう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	城陽市地域密着連絡会議で協力関係を築いている。	行政とは、必要に応じて報告・連絡・相談の関係が確保されている。その他、行政の協力もあり、他の地域密着型事業所との情報交換・意見交換・事例検討等の勉強会の場が確立出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回施設内での勉強会を実施し、身体拘束防止に努めている。	身体拘束禁止の研修は、年間研修計画に組み込まれ実施されている。職員会議等でも話し合い、職員同志で注意し合う雰囲気を作っている。身体的な拘束だけではなく、精神面での拘束を認識し、幼児語や抑制する言葉の使い方について充分留意して支援にあたっている。	

京都府 グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回施設内での勉強会を実施し、出席できない職員には伝達している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会は開いていないが、職員同士で話し合う機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかり説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や要望等は、ケア会議、日々のミーティングで話し合い、運営に反映している。	家族等からの意見等は、来所時の会話の中から聞き取り、来所の少ない場合は電話で情報交換をしている。利用者からの意見は、日常的な会話や行動から聞き取ったり、汲取っている。聞き取った意見等は記録し、事例によってミーティングや職員会議で検討し改善に繋げる体制を持っている。現時点では、運営に関する意見・要望としては、特に出ていないが、家族への連絡について、職員間で連携が取れていなかったため、職員で話し合い記録の方法を改善して、ミスをなくした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回スタッフのヒアリングを行い、意見の反映をはかっている。	職員からの意見は、日常的に管理者・職員間で話し合っており、ミーティング・職員会議でも聞き取る機会にしている。主な意見等は、利用者一人ひとりの支援方法についてが多い。その他、記録方法についてや外へ出たい利用者の対応について等の意見が出て、改善に向けた話し合いをして実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長とスタッフは常に話をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会には理事長も参加しており、アドバイス等をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着会議を行っており、その中で勉強会等を実施している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホーム入居前には、なるべくデイサービスや小規模多機能型居宅介護を利用することで、スムーズにグループホーム生活を送れる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族と連絡をとっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議を開いて話し合いを行い、必要とするサービスを決定している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物の片付けをスタッフを一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの理念にそって、家族の役割ホームの役割を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所に行ったりしている。 本人の友人や知人が面会に来られてもよいと家族に伝え、馴染みの関係が途切れないように努めている。	友人やかつての隣人が来所される事があり、ゆっくり話し合える場を提供し、お茶の接待をして来訪を歓迎している。クリスチャンの利用者には、時々教会のミサに出掛けられる様に支援している。絵の好きな人には、絵画教室で「ぬり絵」を、ピアノが得意な人にはピアノ演奏をしてもらったり、其々の趣味を大切に継続出来る様に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室に戻ることは少なく、利用者同士やスタッフと一緒にTVを見たりして過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても相談があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動等をしっかりと観察することで、希望や意向の把握に努めている。	利用前の面談で、本人・家族等から生活歴・心身状況・希望・要望等を聞き取り、アセスメントシートに記録している。入所後は、日常の会話・行動・表情・仕草等から、希望や要望を聞き取ったり、汲取って記録し全職員が共有している。必要に応じて「その人らしい生活」が出来る様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の聞き取りでは不十分なので、家族に聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察や手引き歩行等をすることで、状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やミーティング時に話し合いをし、それぞれの意見を反映させた計画を作成している。	日々の介護支援記録を計画作成担当者が一ヶ月毎にまとめて、三か月を目途にモニタリングしている。その結果を基に、サービス担当者会議を開き、必要に応じて介護支援計画の見直しをするが、特に変化がなければ12か月で見直しを行っている。見直しに際しては、事前に、家族等の意見を聞き取ったり、「医療ノート」に主治医・看護職等の情報が記録されており、参考にしているので、現状に即した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやカンファレンスノートで話し合った内容を記録し、担当者に伝えている		

京都府 グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型居宅介護事業所等他部署と連携・交流し、又個別のニーズに対応する努力をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運動会や校区内の運動会に参加する等、地域資源との協働に努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、かかりつけ医の往診を利用者全員が受けている。 その場で、事業所とかかりつけ医の信頼関係を築くことで受診支援をしている。	かかりつけ医の選択は、本人家族等の希望を尊重しているが、全員が協力医を選んでいる。二週間に一度往診があり、年二回の健康診断を実施して健康管理を行っている。希望により、訪問歯科・口腔ケアを受ける機会を設けている。本人・家族等・医療関係者・事業所が互いに連絡を密にして、適切な医療が受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の利用者の変化は、看護師に逐一報告し、指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	昨年9月に利用者が心不全で入院したが、介護職が何度か病院に出向き、利用者の様子や病院関係者に対し、状況確認や意見交換を行った		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には説明し、同意を得ている。 年2回のサービス担当者会議、または日常の面会時等に話し合い、方針の共有に取り組んでいる	事業所の方針として「家族との絆」を大切にしながらも、重度化してきたり、終末期を迎えても、出来る限り事業所で支援したいという強い思いを持っている。家族・かかりつけ医・看護職・介護職等関係者の話し合いと協力に取り組もうとしている。最終的には、病院で最後を迎えられたが、その直前まで事業所で看取った経験を持っている。今後もその経験を生かして支援していく考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を定期的に行い、その中で事故発生時に備えての訓練等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣にも参加を呼び掛けて、年2回の防災訓練を行っている。 そのうち1度は夜間想定避難訓練を行い、災害対策に努めている。	年二回昼間・夜間を想定して避難訓練を実施している。その他、四回に渡って消火器訓練を実施している。鉄筋の建物なので、「煙」に注意して広いベランダを通過して避難し、救助を待つ様にと、消防署からアドバイスをもらっている。備蓄としての食料品等は置いていない。米や乾物等常時貯えている。卓上コンロやガスボンベもある。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修にて人格の尊重をプライバシーの保護に取り組んでいる。気づいた点はスタッフ同士で指摘し合い、向上を目指している	接遇マナーとプライバシー保護の研修は年間研修計画に基づき実施している。全職員が理解し実践に努める様に指導している。トイレへの声掛け・誘導時の対応や、居室のドアの開閉に注意し、入浴時に羞恥心を抱かせない様に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ思いや希望を聞くように心掛けていますが、日常の業務をこなす中で等閑になることもある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを優先しているところもある(例えばレクリエーションへの参加等も強制はしない)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々人の差に合わせて、見守り、又は手伝っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人のできることを活かし、食器拭きなど片付けをしている。	朝食と夕食は、グループホームのキッチンで調理している。昼食は一階の食堂で専任の職員が厨房で調理して、全員(グループホーム・小規模多機能・職員)と一緒に食事している。利用者から「大勢で賑やかに食べられるのは、うれしいし、美味しい」という声が複数で聞かれた。誕生日には、赤飯と天ぷら等でお祝いの心を表している。その他、行事食や外食も楽しみにしている。食卓の高さは、段差を付けて個人の身長に合わせる様にしたり、椅子にクッションをおいて食べやすい配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的なカロリー計算、また利用者の中には水分量を逐一チェックしているケースもある		

京都府 グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者全員に口腔ケアを促し、ある場合には介助しながら実践している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タイミングの良いトイレ誘導などに心がけ、できるだけおむつやパットの使用を減らす努力をしている	利用者個人の排泄パターンを把握している。必要に応じて、さりげなく立ってもらってトイレに誘導している。入居時、失敗が多かった人も、だんだん失敗が無くなり家族からも喜ばれている。出来るだけ布パンツに替えられる様に努めている。全員トイレでの排泄が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖を使用する等の工夫や、また排便の環境づくり等に気を配っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が入りやすいタイミングをはかり、入浴を楽しんでいただけるよう見守りをしている。	利用者個人の身体機能を鑑み対応している。必要に応じて、浴槽を跨ぐのが困難な場合や不安を感じる利用者には、二人介助にしたり一階での広い浴槽を利用している。ボランティアの協力により「ドクダミ」を乾燥して、入浴剤にしている。皮膚状態が良くなり喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間帯に関係なく、体調等に応じて居室で床に慣れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職、医療機関の指示を仰ぎながら服薬の支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品等については、個別に対応している。また、将棋をする等、できる範囲で個別対応している		

京都府 グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	サービス担当者会議などで本人の希望に添えるような外出支援を家族の協力の下で実践している	広い前庭には、ボランティアが丹精した色とりどりの花が咲いて目を楽しませていて、恰好の「外気浴」「気分転換」の場となっている。季節毎に外出しているが、秋には「柿狩り」に行き皆で皮をむいて干し柿を作って「柿なます」を楽しんでいる。近くの小学校の運動会に招かれて「幼老のふれ合い」の機会にもなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が財布を持ち、職員が同伴して買い物に出掛けることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が不穩の時等、家族に連絡し、話ができるように支援することがある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な共用空間、また季節感のあるものを置くなど、居心地の良い空間づくりを工夫している	玄関前はボランティアの手によって、草花や陶器の飾り物がさりげなく配置されている。又、手作りの祠の中に「マリア様の像」が安置され、来訪者の安寧が祈られている雰囲気がある。玄関も広くスロープもあるので、車いす利用者にもやさしくなっている。階段も広く段差が低い為昇り易くなっている。利用者は、エレベータを使わずリハビリを兼ねて階段で上り下りしている。歩行困難な利用者には、職員が介助している。リビングは、天井が高く大きな明り取りの窓がある。日射を避けるために、白いカーテンを取り付け開閉自在にして調節している。キッチンやトイレも清潔になっており、装飾もシンプルに利用者の作品が飾られ居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室で自由に過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた調度品を置いたり、思い出の品、写真などを居室におくように心掛けている。	利用者の好みによって、ベッドや布団を使用している。タンスも好みの物を持参している。窓が大きく、畑や古い農家の家並み等外の風景を楽しむことができる。適度な広さと明るさがあり、落ち着いた部屋作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスやエレベーターはなるべく使用せず、残存機能を活かしてもらうよう工夫している		